

目的 評価項目125項目を通して、日々の教育活動を振り返り、3年課程構築の一助とする。

- 目標
1. 学校運営の評価の視点を再確認できる。
  2. 評価の視点で、日々の教育活動を振り返ることができる。
  3. 3年課程学校運営の具体的な検討資料とする。

評価期間 令和5年4月～令和6年3月の1年間

実施者 教員7名 事務：2名 計9名

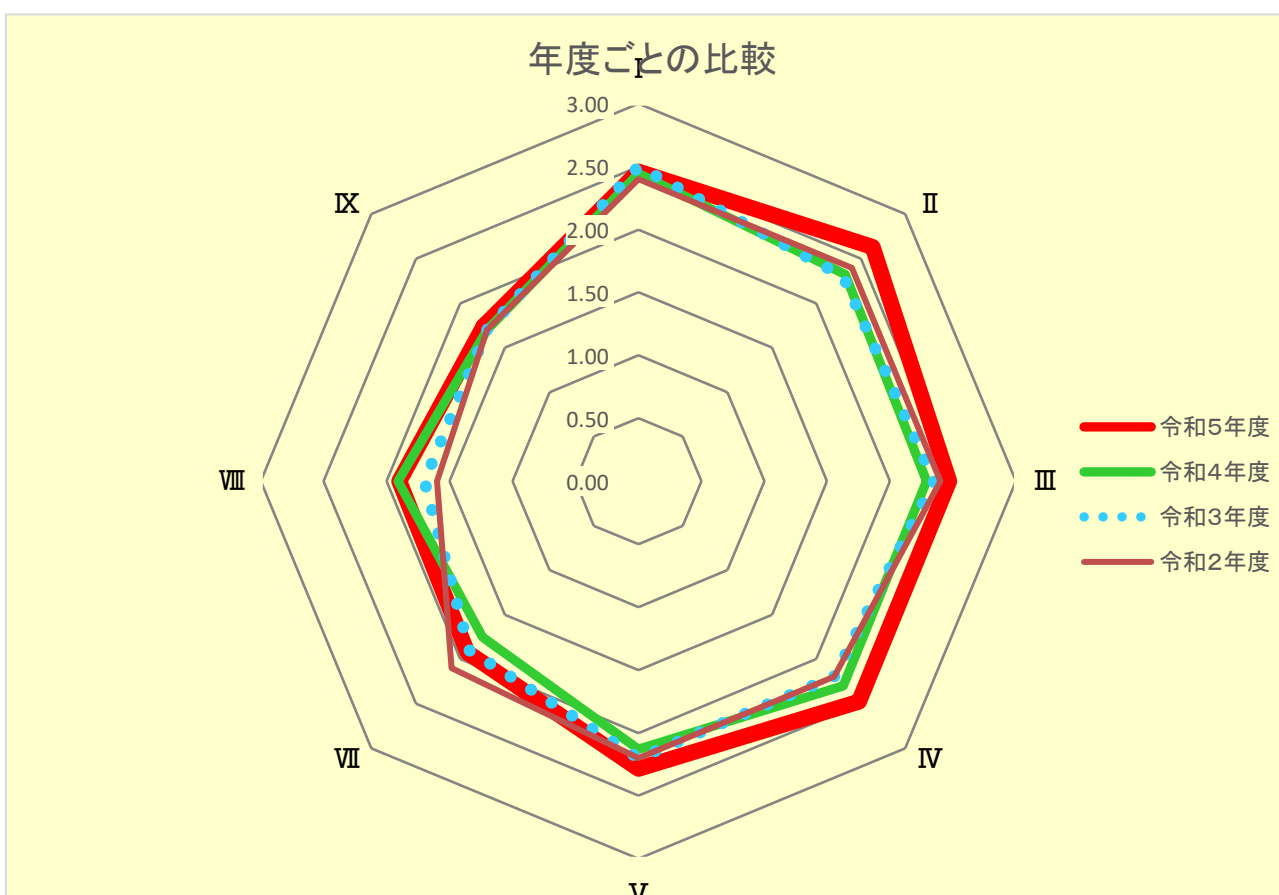
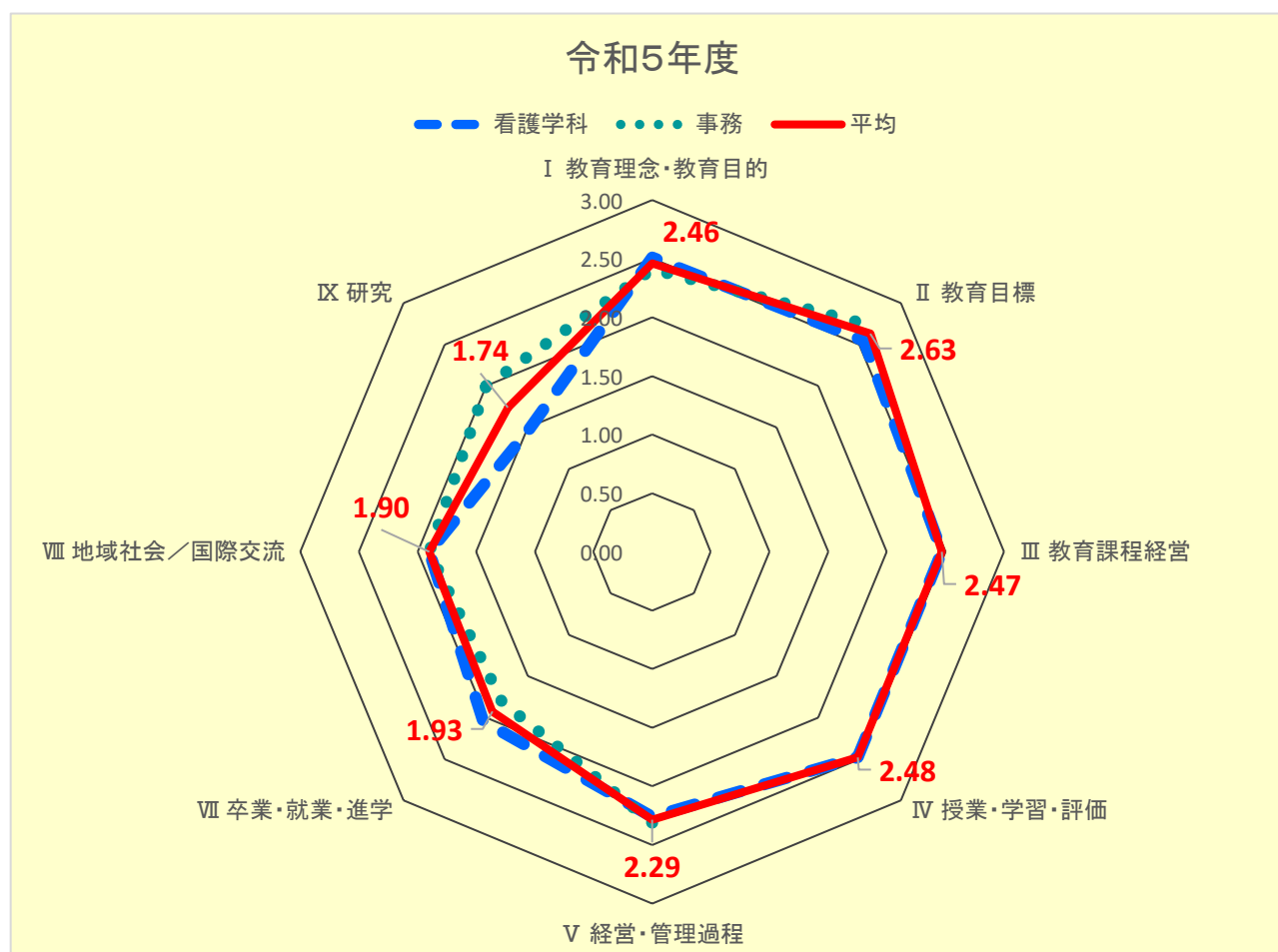
- 方法
1. 説明 令和6年2月 教務会にて
  2. 配布 令和6年2月 教務会にて
  3. 回収 令和6年3月 1日（金）～ 4日（月）の間に、事務課長に提出
  4. 結果 令和6年4月職員会で 集計結果を公表する
  5. その他 事務の回答範囲  
Ⅲ教育課程の経営 と Ⅳ教授・学習・評価課程は除く

表1 集計結果の平均

項目	看護学科	事務	平均
I 教育理念・教育目的	2.51	2.41	2.46
II 教育目標	2.55	2.71	2.63
III 教育課程経営	2.47		2.47
IV 授業・学習・評価	2.48		2.48
V 経営・管理過程	2.26	2.31	2.29
VII 卒業・就業・進学	2.04	1.81	1.93
VIII 地域社会／国際交流	1.90	1.90	1.90
IX 研究	1.48	2.00	1.74

表2 年度ごとの比較

項目	令和4年度	令和3年度	令和2年度
I 教育理念・教育目的	2.4	2.5	2.4
II 教育目標	2.3	2.3	2.4
III 教育課程経営	2.3	2.4	2.4
IV 授業・学習・評価	2.3	2.2	2.2
V 経営・管理過程	2.1	2.2	2.2
VII 卒業・就業・進学	1.8	1.9	2.1
VIII 地域社会／国際交流	1.9	1.7	1.6
IX 研究	1.7	1.7	1.7



【Ⅶ. 卒業・就業・進学】、【Ⅷ. 地域社会／国際交流】、【Ⅸ. 研究】の項目の点数が低く、いずれの項目についても環境整備ができていないため

いずれの項目も前年度と比べると項目毎で点数が同じか上がっており、改善しているとの見方も出来る

目的：専修学校における自己評価表を用いて、本校の組織的・継続的な教育活動等の改善を図る

- 目標：1. 評価項目から、評価の視点が分かる  
 2. 自己の教育活動を振り返る  
 3. 改善点が見いだされ、今後の教育活動に活かすことができる

評価期間 令和5年4月～令和6年2月

実施者 3年課程教員9名、事務2名 計 11名

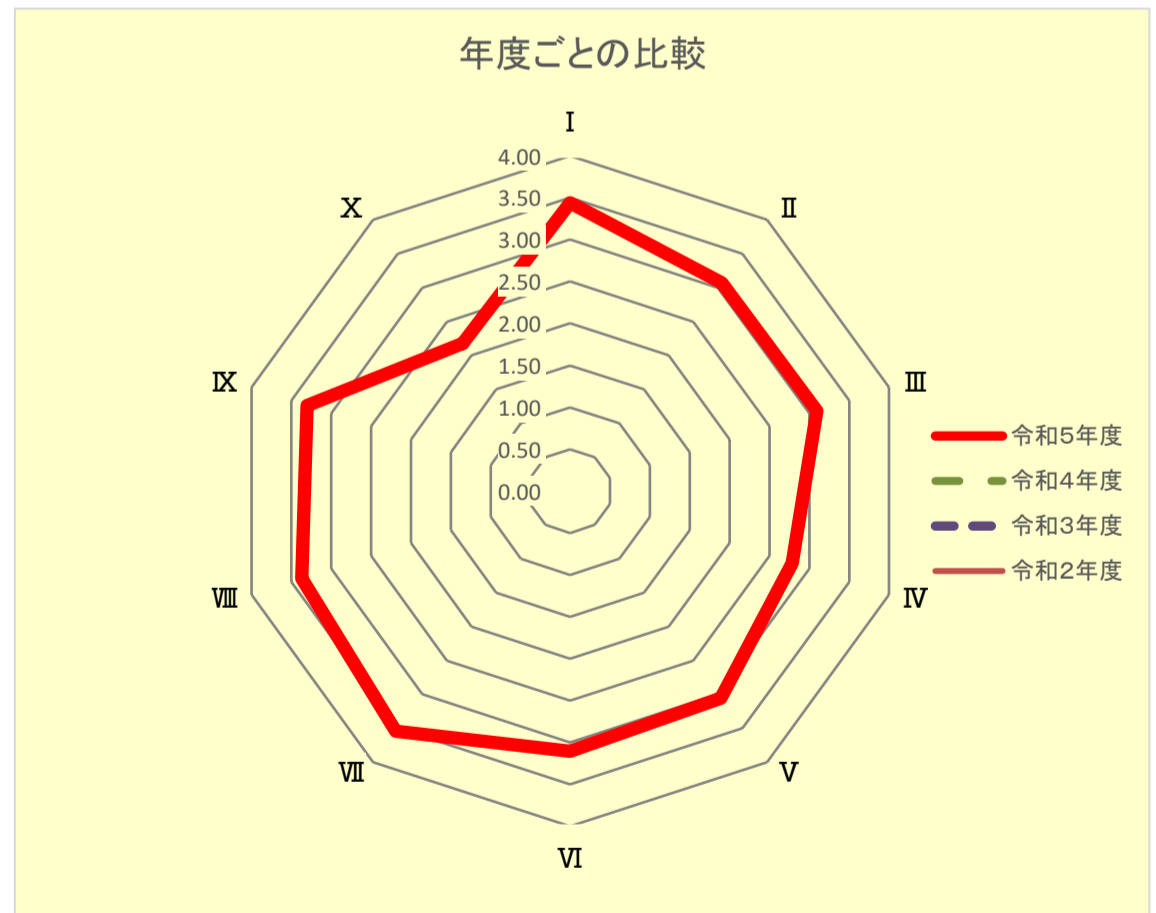
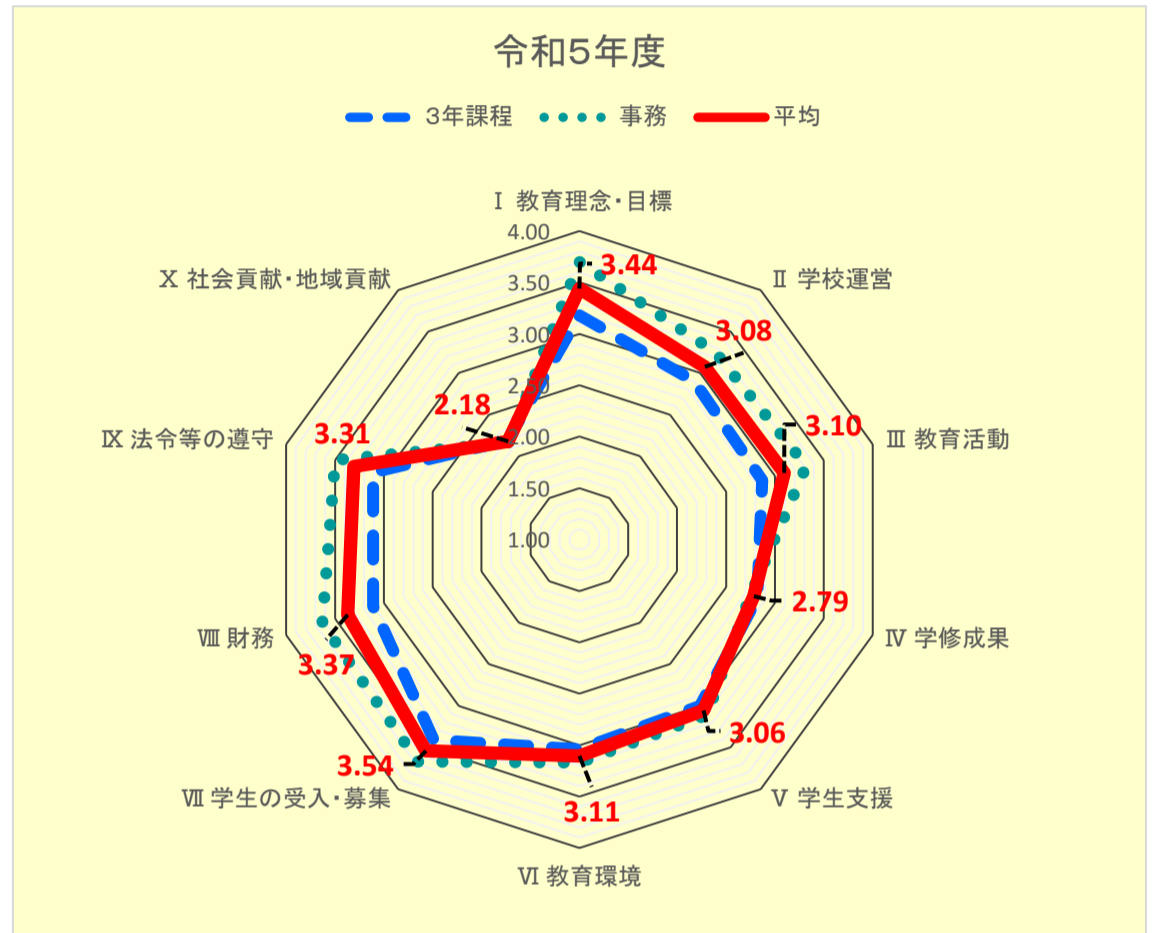
- 方法 1. 説明 令和6年2月の教務会にて  
 2. 配布 令和6年2月の教務会にて  
 3. 回収 令和6年3月1日（金）～4日（月）の間に 事務課長に提出  
 4. 結果 令和6年4月職員会で、結果を公表する

表1 集計結果の平均

項目	3年課程	事務	平均
I 教育理念・目標	3.18	3.70	3.44
II 学校運営	2.90	3.25	3.08
III 教育活動	2.87	3.32	3.10
IV 学修成果	2.82	2.75	2.79
V 学生支援	3.00	3.11	3.06
VI 教育環境	3.04	3.17	3.11
VII 学生の受入・募集	3.41	3.67	3.54
VIII 財務	3.11	3.63	3.37
IX 法令等の遵守	3.11	3.50	3.31
X 社会貢献・地域貢献	2.19	2.17	2.18

表2 年度ごとの比較

項目	令和4年度	令和3年度	令和2年度
I 教育理念・目標			
II 学校運営			
III 教育活動			
IV 学習成果			
V 学生支援			
VI 教育環境			
VII 学生の受入・募集			
VIII 財務			
IX 法令等の遵守			
X 社会貢献・地域貢献			



専修学校のガイドラインを使用して初めての自己評価となり、前年度までとの比較が出来ない。点数が低かった【X. 社会貢献・地域貢献】については昨年までと設問内容が異なっても、他の項目と比べ地域貢献に対する評価は低い結果になっている。今後の地域との関わり方が重要。

【IV. 学習成果】については、3年課程が始まった年度であり、就職や卒業生・退学率などの卒業に関する設問が多いことから「評価できない」との意見が多かった。卒業生が出てくる頃には評価できるための体制整備が必要となる。